

21世紀型コミュニケーション力の育成

—実践報告と授業のポイント—

放送大学 教授 中川 一史

金沢星稜大学 教授 村井 万寿夫

熊本県教育庁 指導主事 山本 朋弘

横浜市立高田小学校 主幹教諭 佐藤 幸江

金沢市立小坂小学校 教諭 小林 祐紀

キーワード：言語活動、情報活用能力、コミュニケーション能力、能力表、学習活動案

コミュニケーション力について体系的あるいは教科横断的にどのように育成していくかは、新しい学習指導要領実施のタイミングで重要な課題である。

そこで、CECでは、コミュニケーション力を育成する学習活動のための手引書を調査研究事業の一環として昨年度作成した。

ここでは、教員が自分でできる教科の学習活動を行うことによって、どこでどのようなコミュニケーション力の育成が可能になるのか、また、そのような力をほかのどの教科や領域の学習指導に関連して育成することが可能になるのかを検討することができる。

本調査研究では、小学校学習指導要領に対応させながら言語活動と情報活用能力をキーワードに、コミュニケーション力を『主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力。』と定義している。

これをスキルの視点で捉えると、

「人やメディアにアクセスするスキル」

「複数の情報から必要な情報を取り出し新たに情報を生成するスキル」

「メディアを活用しながら表現・交流し合うスキル」

になる。

このようなスキルは学校の教育活動全体を通じて身に付けていくものであり、これを端的に「21世紀型コミュニケーション力」と称することにした。

この「21世紀型コミュニケーション力」は、全国の教員への実態調査や学習指導要領との関連から、協調的段階としての「対話」「交流」と、主張的段階としての「討論」「説得・納得」の4つの段階に整理した。また、1つの指針として、21世紀型コミュニケーション能力表に整理した（表1参照）。

協調的レベル「対話」や「交流」で重要なのは、「多様性の理解」である。自分の考えや思いと誰（どの）の考え・思いは同じなのか、誰（どの）の考えや思いはちがうのか、その「同じ」と「ちがう」を明確にしていくことが重要である。算数や理科で、答えははっきりしているが、その求め方、考え方がいろいろあることに気付くなどはこれにあたる。

例えば、4年・理科の実践で、「あたためた容器の栓が飛び出したり、石けん水のまくや風船がふくらんだりするのは、どうしてだろうか」について、自分と友達の考えの共通点あるいは相違点について、お互いの考えを整理すること

を行う場面がそれにあたる。協調的レベルでは、当然ながら、国語科での「話すこと・聞くこと」を日頃から十分鍛えて

いくことが重要である。その中で、ちがう視点に気付いたり、アイデアを上げたりしていくのである。

一方、主張的レベル「討論」や「説得・納得」は、つまるところ、「最適化の追究」である。他の友だちとの考えの相違を理解した上で、しかし、自身の考えの正当性を理由や根拠、事例などをもとに展開していく。

例えば、5年・社会の実践で、「養殖漁業と栽培漁業、魚を増やすにはどちらがよいか」について、根拠をもとに意見を述べ、さらにすぐれた意見についての評価まで行っている。

このように、確実な解があるわけではないが、より最適な問題解決に向けて学級内で知恵をしぼっている場面

がそれにあたる。教師側からすると、ある学習では資料から、あるいは既習事項から、子ども個々の体験から根拠をとりたてていくことになる。

また、学年や学級の実態にもよるが、年度前半では教師がとりたてているが、後半では子ども同士でそのような眼を持たせていくことが重要である。このようなやりとりの中から子どもは自己の思考への「ゆらぎ」が生じてくる。本当にこれで良いのか、もっと他の方法があるのか、友だちの意見に賛成できるところはないのか、など、再考を迫られるプロセスが重要である。

また、両レベルとも、これらを支える教師の支援はさ



写真1 意見を出し合う



写真2 グループでの交流

まざまである。特に、既習事項などの「想起」、他の側面から検討するための「情報提供」、十分に説明ができない子どもへの補足としての「通訳」、つぶやき等の「拾い上げ」、板書などによる発言内容の「整理」、考えのゆらぎを起こすような「ゆさぶり」等をタイミングよく

行うことは、授業の成立には欠かせない。

本分科会では、21世紀型コミュニケーション力の育成における実践報告と授業のポイントについて、モデル授業をもとにディスカッションしたい。

表1 21世紀型コミュニケーション能力表（各教科共通のカリキュラム骨子）

対 話		交 流		討 論		説得・納得	
考えを出し合い、お互いの考えを明らかにする		考えを出し合い、相手の意見を聞いて相手のことを理解する		相手の考えと自分の考えを比較検討したり意見交換したりする		自分の伝えたいこと論理的に話したり、相手の考えを理解して受け入れたりして、共通理解を深める	
聞く・わかる	話す・伝える	聞く・わかる	聞く・わかる	話す・伝える	話す・伝える	聞く・わかる	話す・伝える
相手の考えを聞く	自分の考えを持つ	相手の考えを聞く	相手の考えを聞く	自分の考えを持つ	自分の考えを持つ	相手の考えを聞く	自分の考えを持つ
相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す	相手の考えに関心をもって聞く	自分の考えを相手に話す
		相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする	相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする	相手の考えに共感しながら聞く	相手の話を受けて話したり聞いたりする
		相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える	相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える	相手の考えを聞きながら、相手の目的や立場を理解する	お互いの考えを整理し、目的や立場に応じて伝える
				相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する	同じところや異なるところを確認しあう	相手の考えを聞きながら、考えの共通点や相違点を理解する	同じところや異なるところを確認しあう
				話題について多様な考えを出し合い、考えを確かにする	話題について多様な考えを出し合い、考えを深める	話題について多様な考えを出し合い、考えを確かにする	話題について多様な考えを出し合い、考えを深める
						自分の考えが分かってもらえたか相手の発言や表情で確認し、新たな説明の仕方を検討する	筋道立った説明をしようとしているか再考し、相手に伝える
						議論について多面的な意見を出し合いながら、共通理解を深める。	自分の経験やものの例えを用いて相手を説き伏せる

----- 協調的レベル -----> ----- 主張的レベル ----->

分科会B